

一気飲み大会で勢いよくビールを飲む参加者たち。
優勝タイムは驚異の〃5秒。



祭りで活気ある団地に

御船台団地ふれあい・夏祭り

御船台団地ふれあい・夏祭りが8月29日、滝尾地区の御船台団地下の公園で開催され、団地や地域の住民が参加して楽しみました。団地内の親睦を目的に夏祭り実行委員会(古閑金光会長)が主催し、今年で8回目。祭りでは、ひょっとこ踊り、水越風神太鼓、カラオケ、寸劇など趣向を凝らした盛りだくさんのイベントに会場からはにぎやかな声が響きわたっていました。古閑会長は、「年々(祭りの)参加者も増えている。団地内の付き合いを深めて活気ある団地にしたい」と熱い想いを話されていました。

提灯の灯りが水面を照らし、ゆっくりと流される精霊舟



商店街で伝統の夜祭り

みふね地蔵祭り

みふね地蔵祭り(御船町商工会主催)が8月23日と24日、本町通り(1丁目~5丁目)で開催されました。江戸時代の中ごろから、子どもたちの成長と商売繁盛を祈って始められた300余年の伝統ある祭りで、通りには御仮屋が立ち並び主役のお地蔵さまが出座。地域住民たちによるガンダムやピカチューなどの造り物7基も飾られ見物客を楽しませました。このほか、商工会館前を歩行者天国にして、御船高校生による似顔絵コーナー、そうめん流し、キッズダンスなどのイベントもあって祭りをより一層盛り上げていました。



毎年子ども達に大人気の「そうめん流し」

故人を送る幻想の火

夏季慰霊祭・精霊流し

熊本三大精霊流しの一つといわれる御船町精霊流しが8月16日、御船橋下河川敷で開催され多くの見物客が訪れ精霊舟や灯籠を見送りました。

午後7時から始まった夏季慰霊祭では、今年初盆を迎えた遺族などが読経の続くなか、次々と焼香し故人と過ごした思い出の日々を静かに偲んでいました。

この後、花火や爆竹のにぎやかな音とともに精霊流しが始まると、故人の名前が書かれたのぼりを立て、提灯や花で色鮮やかに飾りつけられた大小30隻の精霊舟が関係者に担がれて、御船川へ次々に流されていました。

また、約200個の万灯籠も流され、河畔に詰め掛けた見物客は、ゆらゆらと川面を照らし夕闇に浮かび上がった幻想的な〃光の帯、に見入っていました。

芸術のルーツ解き明かす舞台劇

御船町で生まれた舞台劇「踏み石」

富田至誠と教え子たちのきずなを描いた舞台劇「踏み石」が8月22日と23日の両日、カルチャーセンターで開演され、延べ約1400人の観客を感動の渦に巻き込みました。これは、「郷土に学ぶ文化事業」実行委員会が2年を費やして作り上げた労作。富田は鹿本郡鹿本町の出身。東京美術学校を卒業後の大正4年4月、開校したばかりの旧制御船中学校(現御船高等学校)へ図画教師として赴任。昭和24年に、52歳の若さで病没するまで、同校の美術教師として情熱を注ぎ、井出宣通や佐久間修、浜田知明などの著名な芸術家を数多く輩出させ、御船の地に芸術の礎を築いた人物。劇では、富田と教え子たちの強い信頼関係やつながりをあますところなく上演。御船町民も出演して親近感ある演技に会場からは盛んな拍手が送られていました。



ラストシーンでは出演者総出の演技で大きな拍手に包まれた会場

「浅の敷万歳」「御船町をどぎゃんかせないかん」などと大声で叫び会場の笑いを誘った絶叫大会



ふるさとは元気です

浅の敷ふるさと夏祭り

浅の敷ふるさと夏祭りが8月14日、田代地区浅の敷で開催され、地域住民や帰省客約200人が参加しました。この祭りは、毎年お盆に帰省する人との交流の場として開催され、今年で8回目。約90坪の広さに畳を敷き詰めた特設会場では、声の大きさを競う絶叫大会やフラダンスショー、カラオケ大会などでにぎわいました。祭りに参加された同区の永野ムツエさん(80歳)は、「里帰りした人と祭りを楽しくて嬉しい。毎年、続けて欲しい」と話され、区全体がひとつの〃家族、のような温かい祭りは夜遅くまで続いていました。

将棋で集中力UP

御船町こども将棋大会

御船町こども将棋大会が8月10日、カルチャーセンターで開催され小学生20人が対局を楽しみました。御船町将棋愛好会(駄本祥一会長)が、子どもとのふれあい、心身の健康、集中力の向上などを目的に初めて開催しました。大会はトーナメント方式を採用。大人顔負けの巧みな読みと駆け引きを展開する参加者たち。将棋歴3年で抜群の集中力で優勝した〃初代名人、の滝尾小6年の松本健秀くん(滝尾)は、「(将棋は)相手の動きが自分の読みどおりにはまったときが面白い」と奥深い話をしていました。



決勝戦で慎重に駒を進める松本健秀くん(左)と河地俊秀くん(右)